

加藤 雄介
福屋 研究室
設計主旨

現在の状況において
都市部は高層化し土地の
有効利用を図る事が必要
になってくる。また、都市開
発によって昔からの建築
や、昔ながらの景色も取り
壊されてきた。その文化が
建設によって、日本のある
べき文化や自然、風情がな
くなりつある。

そこで、その高層建築に
路地的な空間を介入させ
そこに住む人達の居場所
や各人にとつての落ち着
きのある「家」であり、同
時に日常的に暮らす上で
「都市」的な場所を提
案する。

その人達が各一人一人
が持つ「居場所」を共存す
る事で、当たり前のように
教えあい、そして助け合う。
そのような昔あったまちの
風情が高層建築によつて
人に伝えられていく。
建築から人に伝えるような
居場所のある空間を計画
した。